

出題 螢雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

## 問題【国語】

次の三つの俳句は同じ俳人によって詠まれたものです。その俳人は誰のことでしょうか。

- 柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺
- 夏草や ベースボールの 人遠し
- 贈り物の 数を尽くして クリスマス

## 豆知識 雑学コラム

### Xマスに俳句、いかが？

今回のテーマは、正岡子規です。正岡

子規は明治時代の俳人で、「柿食えば

鐘が鳴るなり 法隆寺」は有名な一句だ

と思います。俳人と聞くと和服姿で日本

の伝統を重んじる人物を想像してしま

ますが、正岡子規は好奇心旺盛で海外由

来の新しいものを積極的に取り入れてい

く人物だったようです。では、見ていき

ましよう。

正岡子規というと野球好きだったとい

う話は特に有名ですよ。当時、野球は

アメリカから導入されたばかりの新しい

スポーツでした。正岡子規は、「バッタ

ー」を「打者」、「ストリート」を「直

球」と訳して、今の野球にも大きな影響

を与えているほど、野球に対して熱心に取り

組んでいました。「夏草や ベースボ

ールの 人遠し」は正岡子規が病気になっ

て、野球ができなくなった後に詠まれた

俳句です。

初めの「夏草や」は芭蕉の「夏草や兵

どもが夢のあと」を連想させますね。芭

蕉は平泉で生い茂る草を見て、昔戦いに

奮闘していた武士を思いながら「夏草や」

の俳句を詠みました。子規も夏の草を見

ながら昔自分が野球で奮闘していた日々

を思い浮かべながらよんだのかなと思う

と感慨深いものがありますね。

次はクリスマスについてです。実は正

岡子規がクリスマスについて初めて詠ん

だ俳人と言われています。しかも詠んだ

俳句は一つではなく複数あります。クリ

スマスについて、初めて詠んだ俳句は「臘

八のあとにかしましくります」で「臘

八（仏教の厳かな行事）のあとになんて

やかましいんだ、クリスマスとは」とい

う内容のものでした。どうやら、初めの

うちはクリスマスについていい印象では

なかったようです。

しかし、年を経るに連れて気持ちちは変

化していったようで「贈り物の 数を尽

くして クリスマス」では「クリスマス

にできる限りありったけの贈り物をして

もらえて嬉しかった」というようにいい

行事として考えるようになっていったよ

うです。毎年、同じテーマで俳句を詠む

と考え方の変化が見えてきて面白いもの

ですよ。

みなさんも正岡子規のようにクリスマ

## 【解答】